



高耐候速乾アクリルシリコン樹脂系ルーフ用塗料

スーパーシリコンルーフペイント

優れた耐候性・豊富なカラー

トタン屋根だけでなく、新生瓦、セメント瓦などの
屋根材にも使用することができます。

優れた耐候性

アクリルシリコン樹脂を用いていますので2液のポリウレタン樹脂塗料以上の耐候性・耐久性を保持しています。

豊富なカラー

カラーパリエーションが豊富で様々なイメージ演出に対応することができます。屋根用カラーサンプルを金属系と窯業系をご用意しております。

幅広い旧塗膜適性

塗料用シンナーでうすめることができるため、旧塗膜を侵しません。

優れた速乾性

速乾性で塗装後の結露や降雨による白化がおこりにくく、施工時間の延長が可能です。また、低温時の乾燥性にも優れています。

幅広い素材適性

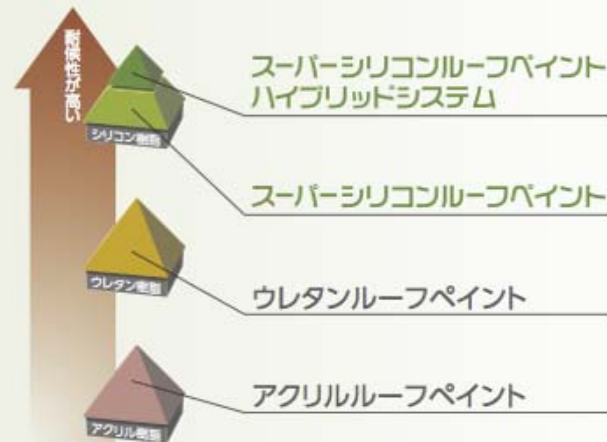
アクリルシリコン樹脂を用いていますので、従来のトタン屋根に加え無機質系(セメント系・スレート系)素材にも適用できます。

1液でも2液でもOK

SSRハイブリッド硬化剤を用いることによって、1液から2液ルーフペイントとして使用できます。

屋根用塗料もいろいろ

塗料の樹脂は図の通り、上のランクほど耐候性が好くなります。



高光沢で耐候性(ツヤ持ち)が抜群!

だから塗り替え周期が一番長い!

だからお得!

結局 スーパーシリコンルーフが一番お得です。

スーパーシリコンルーフペイント ハイブリッドシステム 凍結・融解を繰り返す

SSRハイブリッド硬化剤を用いたシステム

特長

- ① 素地への密着力と耐水性が更に向上します。没水状態に匹敵するようなスノーダクトや勾配の緩い屋根のような凍結融解の激しい部位に最適です。
- ② 1液では従来のアクリルシリコン樹脂の性能を保持したまま使用でき、「SSRハイブリッド硬化剤」を用いることで強靱な架橋反応を得ることができます。完全2液ルーフペイントとして使用できるので、1つのベース材で状況に応じた使用法が可能です。
- ③ 「スーパーシリコンルーフ」常備色全てに対応できます。

性能比較

試験項目	スーパーシリコンルーフ	スーパーシリコンルーフハイブリッドシステム
光沢20/60°G	76/85	83/90
凍結融解サイクル	30 サイクル	○
	50 サイクル	△
塗膜物性	伸び率 (%)	79.0
	破断応力 (N/mm ²)	10.5
促進耐候性 XWCM3000h	光沢保持率 (%)	86
	色差 (ΔE)	0.67
		98.0
		13.0
		90
		0.41

あなたの家の屋根は、大丈夫ですか？

このような兆候が見られましたら、塗り替え時期です。



汚れ

樹木の落ち葉や大気の汚れが蓄積して、そこから塗膜を劣化させていきます。



さび

さびの発生が屋根全体の3%位に達すると、急速にさび面は拡大していきます。



光沢低下

つや(光沢)がなくなれば、それは塗膜が劣化した第一段階です。



白化

塗膜の劣化が進むと手でさわればベタリと白い粉状となって付着します。



ハガレ

塗膜がハガれて金属がむき出しになると、さびが発生し、最終的には腐食し雨水が浸入します。



付着性能

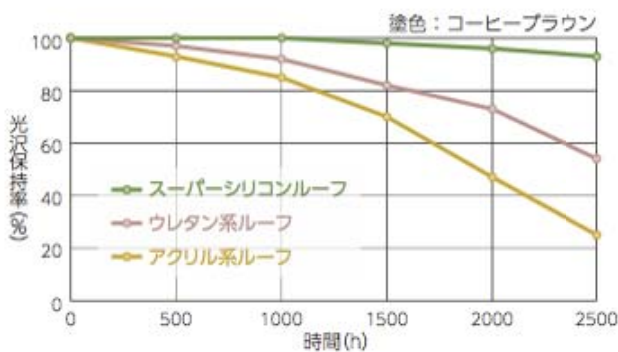
ガムテープなどで、付着具合を確かめます。塗膜がテープに1割以上付着していたら塗り替えをおすすめします。

品質

荷姿	14L
色	標準色(29色)
つや	つや有り(グラファイト3分つや)
仕上がり感	平滑
塗料比重	0.96~1.24
劇物表示(品名・含有量)	—
労安法に基づく表示有害物	キシレン、エチルベンゼン
使用有機溶剤種別	第3種有機溶剤
消防法による危険物区分	第4種 第2石油類(非水溶性)
硬化剤の成分による区分	—

注)上記の数値は標準を示すもので、若干の変動があります。
注)特注対応により、つや消し(3分つや有り程度)が可能です。

促進耐候性試験：XWOM2500時間



厳しい雪国の環境から屋根を守ります。

SSRハイブリッド硬化剤製品概要

- 製品名：SSRハイブリッド硬化剤
 - 製品コード 69-127-001
 - 製品コード 69-127-002(低温用)
 - 容量：2L [1L×2本]
(14Lに対して2L使用します。出荷は2本1セットとなります)
 - 混合比：ベース/硬化剤=7/1
(ベース14Lを14kg、硬化剤2Lを2kgとして計算してください)
- ※ボットライフは23℃で3~4時間程度です。2~3時間で使い切れる程度の量を混合してご使用ください。

スーパーシリコンルーフペイント 標準塗装仕様

トタン						
工程	塗料名・処置	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装方法	希釈率 (%)	希釈剤	塗装期間 (23℃)
素地調整	高圧洗浄、3種ケレン程度の処理を行い、さび、劣化(膨れ・フレ・浮き) 塗膜・ごみ・汚れなどを入念に除去した清浄な面にする。素地露出部は下塗り工程で補修塗りを行う。					
下塗り	ザウルスEXⅡ または アレスルーフエポプライマー	0.13~0.17	はけ、ローラー エアレス	0~10 5~15	塗料用シンナーA	4時間以上 7日以内
上塗り (1回目)	スーパーシリコンルーフペイント	0.11~0.13	はけ、ローラー エアレス	5~15 5~15		2時間以上 7日以内
上塗り (2回目)	スーパーシリコンルーフペイント	0.11~0.13	はけ、ローラー エアレス	5~15 5~15		—

*所要量は被塗物の形状や素材、塗装方法、環境などによって増減する場合があります。
 ※帯鉄メッキ、亜ビ被覆鋼板へ適用する場合は、別途ご相談ください。
 ※JIS K 5629(鉛酸カルシウムさび止め塗料) は使用しないでください。

トタン [SSRハイブリッド硬化剤]						
工程	塗料名・処置	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装方法	希釈率 (%)	希釈剤	塗装期間 (23℃)
素地調整	高圧洗浄、3種ケレン程度の処理を行い、さび、劣化(膨れ・フレ・浮き) 塗膜・ごみ・汚れなどを入念に除去した清浄な面にする。素地露出部は下塗り工程で補修塗りを行う。					
下塗り	ザウルスEXⅡ または アレスルーフエポプライマー	0.13~0.17	はけ、ローラー エアレス	0~10 5~15	塗料用シンナーA	4時間以上 7日以内
上塗り (1回目)	スーパーシリコンルーフペイント SSRハイブリッド硬化剤 (ペース/硬化剤=7/1)	0.11~0.13	はけ、ローラー エアレス	0~15 5~15		2時間以上 7日以内
上塗り (2回目)	スーパーシリコンルーフペイント SSRハイブリッド硬化剤 (ペース/硬化剤=7/1)	0.11~0.13	はけ、ローラー エアレス	0~15 5~15		—

*所要量は被塗物の形状や素材、塗装方法、環境などによって増減する場合があります。
 ※新生瓦、セメント瓦へ適用する場合は、別途ご相談ください。
 ※帯鉄メッキ、亜ビ被覆鋼板へ適用する場合は、別途ご相談ください。
 ※JIS K 5629(鉛酸カルシウムさび止め塗料) は使用しないでください。
 ※ポットタイプは23℃で3~4時間程度です。2~3時間程度で使い切れる程度の量を調べてご使用ください。

ガルバリウム鋼板 ※従付旧塗膜がある場合・旧塗膜がなく露出している場合						
工程	塗料名・処置	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装方法	希釈率 (%)	希釈剤	塗装期間 (23℃)
素地調整	高圧洗浄、3種ケレン程度の処理を行い、さび、劣化(膨れ・フレ・浮き) 塗膜・ごみ・汚れなどを入念に除去した清浄な面にする。素地露出部は下塗り工程で補修塗りを行う。					
下塗り	エポマリンGX (ペース/硬化剤=9/1)	0.16	はけ、ローラー	0~5	テクトEPシンナー	16時間以上 10日以内
上塗り (1回目)	スーパーシリコンルーフペイント	0.11~0.13	はけ、ローラー エアレス	0~15 5~15	塗料用シンナーA	2時間以上 7日以内
上塗り (2回目)	スーパーシリコンルーフペイント	0.11~0.13	はけ、ローラー エアレス	0~15 5~15		—

*所要量は被塗物の形状や素材、塗装方法、環境などによって増減する場合があります。
 ※塗装が新しい新設の場合は、付着不良(ハガシ)が発生する恐れがありますので、塗装を避けてください。
 ※上記のほか、下塗りとしてスーパーザウルスが使用できます。
 ※帯鉄メッキ、亜ビ被覆鋼板へ適用する場合は、別途ご相談ください。

新生瓦						
工程	塗料名・処置	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装方法	希釈率 (%)	希釈剤	塗装期間 (23℃)
素地調整	劣化した旧塗膜や表面の化粧層、砂、ホコリ、汚れ、コケなどは高圧水洗浄機やワイヤーブラシなどを用いて入念に除去してください。その後、水分がなくなるまで十分に乾燥させてください。					
下塗り	ヤネ強化プライマー-EPO	0.20~0.45	はけ、ローラー エアレス	—	—	4時間以上 7日以内
上塗り (1回目)	スーパーシリコンルーフペイント	0.20~0.25	はけ、ローラー エアレス	5~15 5~15	塗料用シンナーA	2時間以上 7日以内
上塗り (2回目)	スーパーシリコンルーフペイント	0.20~0.25	はけ、ローラー エアレス	5~15 5~15		—

上下の瓦が塗料で接着している箇所は、皮スリなどで緩切りを行ってください。
 (瓦の上下に隙間がないと結露水の通気ができなくなり、素材の腐食・漏水につながる恐れがあります。)
 ※所要量は被塗物の形状や素材、塗装方法、環境などによって増減する場合があります。
 ※洋風コンクリート瓦(モニエル瓦) 粘土瓦(いぶし瓦、輪染瓦など)には塗装できませんのでご注意ください。
 ※素地調整などによって、下塗りが基材に吸い込みやすくなる場合があります。その際には、再度、下塗り工程を行い、表面が滑り色になることを確認して、次の工程に移ってください。
 ※金属部分については、ヤネ強化プライマー-EPOの代わりに、ザウルスEXⅡ、アレスルーフエポプライマーなどの金属用さび止め塗料を塗装してください。

セメント瓦 ※劣化度:小						
工程	塗料名・処置	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装方法	希釈率 (%)	希釈剤	塗装期間 (23℃)
素地調整	劣化した旧塗膜や表面の化粧層、砂、ホコリ、汚れ、コケなどは高圧水洗浄機やワイヤーブラシなどを用いて入念に除去してください。その後、水分がなくなるまで十分に乾燥させてください。					
下塗り	ヤネ強化プライマー-EPO	0.20~0.45	はけ、ローラー エアレス	—	—	4時間以上 7日以内
上塗り (1回目)	スーパーシリコンルーフペイント	0.11~0.13	はけ、ローラー エアレス	5~15 5~15	塗料用シンナーA	2時間以上 7日以内
上塗り (2回目)	スーパーシリコンルーフペイント	0.11~0.13	はけ、ローラー エアレス	5~15 5~15		—

*所要量は被塗物の形状や素材、塗装方法、環境などによって増減する場合があります。
 ※洋風コンクリート瓦(モニエル瓦) 粘土瓦(いぶし瓦、輪染瓦など)には塗装できませんのでご注意ください。

セメント瓦 ※劣化度:中および大						
工程	塗料名・処置	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装方法	希釈率 (%)	希釈剤	塗装期間 (23℃)
素地調整	劣化した旧塗膜や表面の化粧層、砂、ホコリ、汚れ、コケなどは高圧水洗浄機やワイヤーブラシなどを用いて入念に除去してください。その後、水分がなくなるまで十分に乾燥させてください。					
下塗り	ヤネ強化プライマー-EPO	0.20~0.45	はけ、ローラー エアレス	—	—	4時間以上 7日以内
中塗り	アレスルーフファイラー	0.30~0.80	はけ、ローラー エアレス	0~5 0~10	上水	2時間以上 7日以内
上塗り (1回目)	スーパーシリコンルーフペイント	0.11~0.13	はけ、ローラー エアレス	5~15 5~15	塗料用シンナーA	2時間以上 7日以内
上塗り (2回目)	スーパーシリコンルーフペイント	0.11~0.13	はけ、ローラー エアレス	5~15 5~15		—

*所要量は被塗物の形状や素材、塗装方法、環境などによって増減する場合があります。
 ※洋風コンクリート瓦(モニエル瓦) 粘土瓦(いぶし瓦、輪染瓦など)には塗装できませんのでご注意ください。
 ※劣化度(劣化)の判断は「セメント瓦葺り工法」のカタログをご参照ください。
 ※劣化処理が十分に行える場合は下塗り工程を省略することもできます。

施工上の注意事項

- ①沈着している場合がありますので、使用前に充分攪拌してください。
- ②他の塗料との混合は避けてください。
- ③希釈は必ず塗料用シンナーAで行ってください。
- ④気温の高い日や被塗物温度が高い場合は「スーパーノンプラ」をご使用ください。
- ⑤過乾燥による施工は、剥離・仕上がり不良・色分け等の原因となりますので所定の希釈率を厳守してください。
- ⑥塗料が保持する塗膜性を十分に発揮するために、所定の塗り回数と塗膜確保による施工を行ってください。
- ⑦積雪の荷重を最も受けやすい軒先の部分、瓦葺き部分、はざ部にはこすり付けのように増し塗りを行ってください。
- ⑧スノーダクトのような勾配の殆ど無い屋根の塗り替えは、高い防水性能を要求されるため必ず下塗り1回、上塗り2回で塗装を行ってください。
- ⑨つや消し・タン樹脂を塗り替える場合には、素材に対する上塗り塗料の吸い込みを抑えるため、ザウルスEXⅡ又はスーパーザウルスを下塗りとしてご使用ください。
- ⑩トタン素地露出部はザウルスEXⅡ又はスーパーザウルスで補修塗りを行い、所定の塗装仕様で塗装してください。
- ⑪使用した塗装用具の洗浄にはラッカーシンナーをご使用ください。
- ⑫ヤネ強化プライマー-EPOは水分と反応して硬化しますので、容器の蓋を開けたまま放置したり、使用した残りの塗

- 料を容器に戻すなどすると、水分の影響でゲル化する恐れがあります。なお、開缶後は速やかにご使用ください。
- ⑬有機溶剤を使用しているため、施工・保管には十分に配慮してください。
- ⑭エアレスによる塗装の場合は、塗料ミストによる汚染防止のために十分な養生を行ってください。
- ⑮塗膜が発生している箇所はワイヤーブラシ・サンドペーパー等で完全に除去してください。
- ⑯ほこり・油・樹液等は、塗装前に油剤拭き・水洗い(湯水)等で十分に除去し、乾燥した清浄な面にしてください。特にトタンの折り曲げ部分はほこり・砂等がたまり易いので入念な洗浄を行ってください。
- ⑰暑がれがかった古い旧塗膜は入念に除去してください。
- ⑱低温・多湿時に塗膜し、未乾燥状態で夜露などにあたりるとツヤ抜けを起こすことがあります。
- ⑳秋風のような昼と夜の温度差が激しい時期は、結露による膨らみ現象が起こり易いため、時間を考慮して塗装を行ってください。
- ㉑JIS K 5629(鉛酸カルシウム錆止め塗料) は使用しないでください。
- ㉒グラファイト色は施工後の乾燥塗膜が薄くなりますのでご注意ください。
- ㉓高圧洗浄を行なうと屋根が滑りやすくなりますので、足場には十分注意してください。
- ㉔高圧洗浄後は被塗物を十分に乾燥させてください。膨れ・割れ・剥がれの原因になります。
- ㉕高温(40℃以上)、低温(-5℃以下)での塗料保存は避けてください。

ご使用上の注意事項

下記の注意事項を守ってください。
 詳細な内容については化学物質等安全データシート(MSDS)をご参照ください。

■ 予 防 策

取り扱った作業中・乾燥中ともに換気のよい場所で使用し、粉じん・ヒューム・ガス・ミスト・蒸気・スプレーを吸入しないこと。必要な保護具(帽子・保護メガネ・マスク・手袋等)を適用し、身体に付着しないようにすること。吸入に関する危険有害性情報の表示がある場合、有機ガス用防毒マスク、又は、送気マスクを適用すること。又、取り扱った作業場所には局所排気装置を設けること。

皮膚接触に関する危険有害性情報の表示がある場合、顔・手・腕・足・長袖の作業着・前掛けを適用すること。皮膚を洗うこと。静電気放電に対する予防処置を講ずること。

火災が発生しない工具・防護用の電気機器・換気装置・照明器具等を使用すること。

裸火又は高温の白熱体に噴霧しないこと。

本来の目的以外に使用しないこと。

指定材料以外のものは混合(多液品の混合・希釈等)しないこと。

缶の取っ手を持って揺ったり、取っ手をロープやフックで吊り下げたりしないこと。

取り扱った後は、洗顔、手洗い、うがい、及び、鼻洗浄を十分行うこと。

使用済みの容器は、火気、浴槽、加熱物と近づけないこと。

本品の付いた布類や本品の付したものは十分に洗濯して処分すること。

■ 対 応

目に入った場合:直ちに、多量の水で洗うとともに医師の診察を受けること。

皮膚に付着した場合:直ちに拭き取り、石けん水で洗い落とし、痛みや外傷等がある場合は、医師の診察を受けること。

吸入した場合:空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けること。

飲み込んだ場合:直ちに医師に連絡すること。無理に吐かせないこと。

漏出時や飛散した場合は、砂、布類(ウエス)等で吸い取り、拭き取る。

火災時には、炭酸ガス、泡、又は、粉末消火器を用いること。

■ 保 管

指定容器を使用し、完全にふたをして湿気の多い場所に保管すること。

直射日光、雨ざらしを避け、貯蔵条件に基づき保管すること。

子供の手が届かぬ場所に保管すること。又、関連法規に基づき適正に管理すること。

■ 廃 棄

本品の付いた布類や本品の付した、及び、使用済み容器を廃棄するときは、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処分すること。(排水路、河川、下水、及び、土壌等の環境を汚染する場所へ廃棄しないこと。)

■ 施工後の安全

本製品は揮発性の化学物質を含んでいますので、塗装直後の引渡しの場合は、施工主に対して安全性に十分に注意を払うように指導してください。例えば、不特定多数の方が利用される施設などの場合は、立ち昇りなどでベニヤ塗り立てである旨を表示し、化学物質過敏症等並びにアレルギー体質の方が集まることのないようにしてください。

関西ペイント販売株式会社

関西ペイントホームページ
www.kansai.co.jp

本 社 TEL (03) 5711-8904 FAX (03) 5711-8934
 北海道販売部 TEL (01133) 64-2424 FAX (01133) 64-5757
 東北販売部 TEL (022) 287-2721 FAX (022) 288-7073
 関東販売部 TEL (028) 637-8200 FAX (028) 637-8223
 東京販売部 TEL (03) 5711-8905 FAX (03) 5711-8935

中部販売部 TEL (052) 262-0921 FAX (052) 262-0981
 大阪販売部 TEL (06) 6203-5701 FAX (06) 6203-5603
 中国販売部 TEL (082) 262-7101 FAX (082) 264-3285
 四国販売部 TEL (0877) 24-5484 FAX (0877) 24-4950
 九州販売部 TEL (092) 411-9901 FAX (092) 411-3339

*製品改良のため仕様は予告なしに変更することもございますのでご諒承ください。

ご用命は